

総合環境理工学部 アセスメント・ポリシー

総合環境理工学部は、以下の指針をもとに、学生が修得した知識、技能並びに思考力、表現力、意欲を多面的に評価します。

1. 評価の内容

講義科目や演習科目では、知識とその応用力を評価します。実験・実習科目では、技能、態度、コミュニケーション能力についても評価します。

2. 評価の方法

知識とその応用力に関しては、筆記試験や課題レポート等により評価します。また、科目によっては外部試験（TOEIC, TOEFL, 資格試験等）も評価に活用します。技能は実技試験等、その他の能力は実習現場評価（レポート、ルーブリック、ワーク・プレイス・アセスメントまたは自己評価等を取りまとめて）で評価します。

3. 評価の基準

筆記試験、実技試験は数値化して達成度を評価します。科目の成績は、次に示すレターグレード（S, A, B, C, D（不合格））で評価します。

レターグレードと評点、及び評価基準表		
グレード	評点（100 点満点）	評価の基準
S	90 点以上	基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている
A	80 点以上, 90 点未満	基本的な目標を十分に達成している
B	70 点以上, 80 点未満	基本的な目標を達成している
C	60 点以上, 70 点未満	基本的な目標を最低限度達成している
D	60 点未満	基本的な目標を達成していない

4. Grade Point Average (GPA)

GPA による成績評価方法を導入し、学生個人及び科目の達成度の評価に利用します。また、表彰制度や大学院進学等の進路指導に関する判断資料として活用します。

5. 再試験及び追試験

定期試験で、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行うことがあります。また定期試験を何らかの正当な事由で受験できなかった場合は、追試験を行うことが

あります。

6. 出席条件

科目履修は全ての授業に出席して「学修」することが前提ですので、出席状況は評価の対象にはなりません（出席点はありません）。また、実験・実習・演習等で全ての課題を修めることを条件とする科目においては、原則として欠席は認められません。

7. 情報の開示

科目 GPA の情報を学生に公開します。また、個々の成績評価に関し、学生からの照会に応じる体制を整備します。さらに、進級・卒業の要件の詳細は別に定めて明示するとともに、その可否は学年当初に学生に通知します。

8. 点検と改善

評価方法の選定と基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性並びに実現可能性を考慮し、学務委員会にて定期的に見直しを行います。さらに、科目 GPA の平均値及び分布の状況を学務委員会で点検し、教育内容及び教育方法の改善につなげます。